



平 2 5 基 地 対 策 第 1 7 号

平成25年(2013年)11月18日

中国四国防衛局長 様

山口県知事 山 本 繁 太 郎



KC-130 空中給油機の岩国基地への移駐等について (照会)

本年10月30日に説明のありましたKC-130 空中給油機の岩国基地への移駐等については、本県や岩国市での説明の席上において出席者からの質問に対して御回答のあったもののほか、下記のとおり、疑問点や追加説明を求めたい点があります。つきましては、平成25年11月30日までに文書により御回答をお願いします。

記

1 ヘリコプター部隊等の移駐の懸念について

KC-130が岩国基地に移駐した場合に、普天間基地に配備されているKC-130以外の航空機の部隊がさらに岩国基地に移駐してくるようなことはないのか。

2 施設整備について

洗機場等が完成していなくてもKC-130の運用は可能なのか。施設の完成までの間、どのような代替措置を講ずるのか。

3 空域調整について

KC-130の岩国基地への移駐に伴い、訓練空域や岩国レーダー進入管制空域について米軍、自衛隊及び民間航空機の間での何らかの調整は行われたのか。

4 移駐する機数の変更について

(1) KC-130の移駐機数が12機から15機に増加する結果、岩国基地での年間の延べ滞在日数がどの程度となり、航空機騒音の状況にどのような変化が生じるのか御説明いただきたい。

(2) 平成8年4月のSACO中間報告では、騒音軽減のため「現在普天間飛行場に配備されているKC-130航空機を岩国飛行場に移駐し、その支援施設を岩国飛行場に移設するとともに、ほぼ同数のハリアー航空機を米国へ移駐する」とされ、同年12月のSACO最終報告において「岩国飛行場から米国への14機の

AV-8 航空機の移駐は完了した」とされた経緯があるが、岩国基地に移駐する KC-130 の機数が 12 機から 15 機に増加することについて、この経緯との整合性はどのように考えているのか。

5 人員の移駐等について

- (1) KC-130 の移駐に伴い、日本人従業員の雇用にはどのような増減が見込まれるのか。
- (2) KC-130 の移駐に伴って岩国基地に移駐する軍人、軍属及び家族用の住宅は、提供施設・区域内にこれまでに整備されているもので充足されるのか。

6 岩国基地での運用等について

- (1) 今後の空中給油訓練の実施場所はどこか。MV-22 オスプレイへ空中給油をする訓練を実施するためにオスプレイの岩国基地への飛来が増加する懸念があるのではないか。
- (2) KC-130 の移駐に伴い、航空機燃料の使用量が大きくなると考えられるが、輸送の方法にどのような変化が生じるのか。また、安全性は十分に確保されるのか。
- (3) 普天間基地でのこれまでの運用において、KC-130 の事故の発生状況はいかがか。

7 海上自衛隊の残留に伴う騒音の確認

海上自衛隊の航空部隊が岩国基地に残留することによって、航空機騒音の状況にどのような変化が生じるのか御説明いただきたい。

8 オスプレイの沖縄県外での訓練について

今般の日米安全保障協議委員会の共同発表では、「オスプレイの沖縄における駐留及び訓練の時間を削減する、日本本土及び地域における様々な運用への参加」等の機会を活用することが決定され、さらに、「MV-22 オスプレイのフォレスト・ライト訓練への参加や低空飛行訓練、空中給油訓練、後方支援訓練といった MV-22 オスプレイによる飛行訓練に留意した」とあるが、これによりオスプレイの岩国基地への展開はこれまでと比較してどの程度増加すると見込まれるのか。

9 その他米軍再編について

祖生通信所での施設整備後には、同通信所に要員が常駐することになるのか。また、施設整備に伴い、岩国基地の部隊の人員に増減はあるのか。